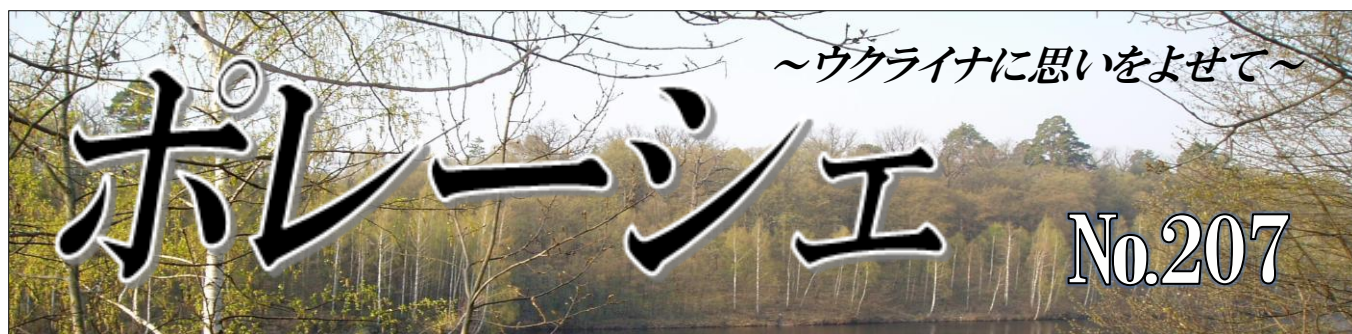


「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2025 年 11 月 15 日発行

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

ノーヴァ・ラドチャ村学校の子供たち

『ジトーミルへの遠足で楽しかったこと♥』



ノーヴァ・ラドチャ村学校の子供たち 14 名(2 年生 1 名、3 年生 1 名、4 年生 2 名、5 年生 2 名、6 年生 4 名、8 年生 4 名と引率教師 2 名、付き添い母親 1 名)は、州都ジトーミル市への遠足を楽しみました。遠足の費用として、交通費(小型バス)、映画チケット代、ハンバーガー代、遊園地代等が支援金から贈られました。戦時下の大きなストレスの中で、ほんのひと時ですが、楽しい一日を過ごせました。

子供たちからは、「楽しかった」「ポジティブな気持ちに」等、感想が送られてきました(次ページ)。

【ドンチェヴァ氏のメール 8/25】

ノーヴァ・ラドチャ村学校の子供たちのジトーミルへの遠足の費用提供に感謝させていただきたいと思います。両親からも教師たちからも、お礼の電話がかかってきています。また、ナロジチ自治体の教育課からも電話があり、感謝されました。このプロジェクトは大変うまくいったといえます！

僕はジトーミルに遠足で行ったのは初めてです。一番気に入ったのは、アトラクションでした。ゴーカートに乗ったり、鏡の迷路に入ったり。それから、友だちと一緒にマクドナルドで食べたのも印象に残りました。また、面白い映画も見ました。ただ一つ残念だったのは、映画を見ていた時、空襲警報が鳴り始めたことです。おいしいアイスクリームも食べました。いい休日とすばらしい遠足をありがとうございました！ アルテム



こんなにすばらしい、楽しい一日を企画して下さいました皆さんに、心から感謝します。友だちと一緒に面白く楽しく時間を過ごしました。僕はポジティブな気持ちにあふれる思いでした。
ヤロスラウ

アトラクションたのしかったです。

マクドナルドもたのしかったです。くうしゅうけいほうがあったのはたのしくなかったです。

遠足は全部気に入りました。マクドナルドでの食事、映画『ヒックとドラゴン』、アトラクション。ローラースケートやゴーカートに乗ったり、鏡の迷路に入ったり、おいしいアイスクリームを食べたり。この遠足とぬいぐるみありがとうございました。ズラータ



ジトーミルへの遠足で、何が楽しかったでしょうか？

私は『ヒックとドラゴン』を見るのが楽しかったです。そのほか、ゴーカートやローラースケートも楽しかったです。マクドナルドに行ったのも楽しかったです。その上、プレゼントももらいました！遠足ありがとうございました！ ナースチャ



親愛なるオーガナイザーの皆さん！

私はジトーミルで、友だちと一緒にとても楽しく過ごしました。アトラクションはどれも大変気に入りました。楽しくて面白かったです。マクドナルドでおいしく食事をして、楽しく遊びました。それから、面白い映画を見て、いい印象が残りました。

こんなにすばらしい休日と、いい思い出をくださったことに感謝しています。ダーリヤ

西三河平和美術展

「ウクライナの子どもが描いた絵」 ～戦時下の子どもの心を映す～

2024 年 11 月 11 日のメール。「西三河平和美術展実行委員会から絵画展の申込がありました。来年 9 月に開催したいとのことです。」—2025 年 9 月に刈谷市美術館で開催された「西三河平和美術展」は、なんと 10 か月以上の準備期間を経て開催されました。開催日程までの間に、何度も詳細なやり取りを行い、実に丁寧に取り組んでいただいていること、また、この取り組みへの深い思いが伺えました。

この美術展は、有志で実行委員会を作り、平和にかかわるテーマを掲げ、平和に生かす活動として開催し、今年で 47 回目とのこと。平和への強い思いを途切れることなく引き継ぎ表現されてこられたといえます。

開催期間中、台風に見舞われ来場者は少し少なかった・・・との事ですが、5 日間で 633 名もの方々が来場されたと伺い、あらためて歴史ある美術展の底力を感じました。

・・・会場を訪れた方の感想文を。

★戦争の生々しい絵を子どもたちはどんな思いで描いていただろう。美しい絵、平和な世界をどんな希望を持って描いていただろう。「生きて帰ってきてネ」生きている命、大切な命、平和であって欲しいです。

★・・・ウクライナの子どもたちが絵に込めた思いを受け止める人がいて、初めて絵が語り始めます。どうか、絵に語らせてください。

絵画展開催ご希望の方は、チェル救事務所まで、ご一報を。

(山盛)



ワールドコラボでカードキャンペーン開催！

10 月 26 日、名古屋市のオアシス 21 でワールドコラボフェスタが開催され、今年もブース出展でチェルノブイリ救援・中部は、クリスマスカードキャンペーンを開催させていただきました。

フェスタ当日は天候がすぐれず、今年は少し厳しいかもしれないと心配しておりましたが、そんな中でも参加者がたくさんいらっしやって、祭りも盛り上がり活気のある一日でした。

子ども達から大人までいろいろな方にカードを書いていただき、集まったカードは合計で 83 枚になりました。

今年はブースの内のスペースが例年より狭くなっておりましたがその分、人が集まるペースが早く、ブースが満員になる時間が多くなり、非常に賑やかな雰囲気になっていました。

またカードを書くだけでなく、ウクライナのことや私達チェルノブイリ救援・中部について熱心にお話を聞きに来てくださる方も多く、ウクライナを支援する立場としてとても嬉しい思いでした。

カードに込めた想いがウクライナの子ども達に伝わって、励ましの力になることを願っております。



ウクライナからの避難者の生活支援ははじめました

長野県箕輪村 原 富男

ロシアによるウクライナ軍事侵攻から3年半が経過しました。私達は一日も早い停戦・戦争の終結を訴えてきましたが、ロシアは今も連日攻撃を行っています。砲撃を逃れる避難者は増加し、日本にも 2747 人が避難し、名古屋市には 120 人が暮らしています。

「生活支援金打ち切り」で生活が大変！

8 月に避難者の生活状況を知る方から「生活が厳しくなっている」ことをお聞きしました。それは国からの2年間の期限付き生活支援金が打ち切られるからだそうです。戦争開始から3年を経過し、早く来日した方は既に支援金が打切られた方もいて、手持ちの資金も残り少なく生活が大変になっているという事でした。また日本語がうまく話せないため、収入が少ないとのことでした。そこで何とか応援できないかと考え私の住む伊那市近辺から野菜・食材・生活用品を集め、月に一度名古屋に届けることにしました。これまで9月と10月に届けることができました。友人知人に呼び掛けるとともに地域の新聞やケーブルテレビにも協力頂いた結果、米・玉ねぎ・ジャガイモ・カボチャ等の野菜、リンゴなどの果物、タオル・鍋・シーツ・バック・等の生活用品、椅子等の家具が集まり届けました。また生活資金カンパも寄せられお届けしました。この支援をいつまで出来るか分かりませんが「日本で生活出来なくなって戦火のウクライナに戻る」という事態が起こらないように、長い支援を続けたいと思います。皆様にもご協力いただければ幸いです。

野菜、食品、生活用品、資金カンパなどお寄せください。

- 1) なるべく新品・未使用品・賞味期限があるものに限ります(生鮮野菜は7日間)。
- 2) 支援品などは名古屋市の委託を受けた「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」(事務局：レスキューストックヤード)」を通じて避難者に届けられます。
- 3) 支援可能な内容を下記まで連絡してください。

支援希望品リスト(例)

1. 食料品(米、小麦粉、野菜、果物、乾麺、蕎麦、調味料、缶詰)
2. 生活用品(洗剤、シャンプー、ボディソープ、石鹸、フェイスタオル、歯磨き粉、歯ブラシ、生理用品、ティッシュペーパー、トイレトペーパー)
3. 家具(ゴミ箱、ダイニングテーブルセット、カーテン、テーブル、室内用物干し、衣装ケース、折り畳み簡易ベッド、チェスト(収納・扉付き)、椅子)
4. 鍋(大・小)、家電(エアコン、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、炊飯器、ガスコンロ(都市ガス)、ミシン、ブレンダー、パンこね器)
5. 自転車(大人用、大人用三輪自転車)
6. 文房具(ノート、消しゴム、ボールペン、シャープペンシル・替え芯)

● 連絡先:伊那谷ウクライナ避難民を支援する会 ☎0265-73-9355(原)

〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村9955-2

ウクライナ国内の避難民の支援も続けていきます

戦闘地域を逃れたウクライナの人々は、国内でも避難民となります。故郷を追われ、爆撃にさらされ、その生活は危険かつ苦しく厳しいものとなっています。キーウの市民団体「未来」は、避難民に懸命に寄り添い生活の手助けをしています。食料品、日用品、衛生品、医薬品…。すべてが不足しています。私たちは「未来」を通じてウクライナの避難民をこれからも支援していきます。どうぞ皆さまもこの先を見守り、支援にご協力をよろしくお願いいたします。

福島原発事故による膨大な量の汚染土壌を大熊町、双葉町の「中間貯蔵施設」から全国にばらまく事を決めた環境省はこの9月26日、放射性セシウムが8000Bq/Kg以下の汚染土を「復興再生土」と名前を変え全国にばらまく事を決定した。このレベルの汚染土壌の安全性に何の科学的根拠も無いにも関わらず事故直後に大熊町と双葉町の住民に「中間貯蔵施設」設置を説得するために30年以内に外部搬出する、と約束したのがその原因である。放射能汚染水を「処理水」と呼んで海洋放出を始めたが、その陸上版である。福島復興の為に全国を汚染する、という前代未聞の政策に我々はどう対処すべきか。

汚染土壌の今後

大熊・双葉の「中間貯蔵施設」には現在1400万 m^3 （東京ドーム11個分：約3,600万トン）の汚染土が貯蔵されている。8000Bq/Kg以下の汚染土壌は半減期で減った現在もその約4分の3が残っている。これを全国の土木事業等で利用する、という。7月22日にはその第一弾として首相官邸前の花壇に埋め込んだが、その量はたった2 m^3 である。以後、環境省や厚労省、外務省等9か所の庭の花壇に埋め込んだ。1か所にこの程度の量なら全国700万カ所にばら撒くことになる。偶然その動画を見る機会があったが、作業員や見守る人にはマスクもしていない人がいた。当然、放射能汚染した粉塵を吸い込んでいる。今後、2045年までに大熊・双葉の中間貯蔵施設から運び出す計画である。全国の土木工事や埋め立て事業などに利用するというが、言い方を変えれば、これは日本国土全域の低レベル汚染事業である。放射能取り扱いの基本は、昔から「汚染を拡散しない」だがこれは科学を無視した真逆の政策である。

汚染土壌拡散反対運動

環境省は当初（2022年）、汚染土を東京の新宿御苑と埼玉県所沢市、茨城県つくば市の国立環境研究所の3か所で埋め立て実施事業を行う予定だったが、いずれも周辺住民の反対運動で挫折し輸送などを契約した大手建設会社に2億円を払って事業を断念した。新宿御苑の汚染土反対をした「放射能拡散に反対する会」は声明を発表し、環境省と交渉し環境

省とIAEA（国際原子力機関）に汚染土再利用の反対声明を提出した（2024年10月30日）。

福島県内での反対運動

汚染土壌の再利用には福島県内でも反対運動で挫折した経緯がある。二本松市原セ地区の市道整備事業（2018年）と南相馬市小高区羽倉地区で常磐道拡張工事の盛り土に汚染土壌を再利用しようとした（2019年）が、市民の反対運動で挫折した。

経産省敷地への汚染土埋立

9月14日（共同通信）



国土環境の安全性を守るはずの環境省が、放射能を全国にばら撒く。この国の未来は危うい。

汚染土問題の詳細は「連載154」を参照下さい。

（2025年10月10日 河田）

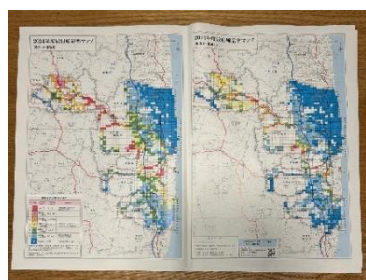
【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆ 8 月 寄付／会費 231,000 円
- ◆ 9 月 寄付／会費 233,000 円
- ◆ 2025 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
1,679,232 円（9 月末）
- ◆ 2025 年度ウクライナ救援基金 913,077 円（9 月末）
- ◆ ウクライナ救援基金累計 29,677,277 円
（2022/3/7～2025/9/30）
- ◆ 会員数 163 名
- ◆ ポレーシェ読者数 683 名
～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆ 銀行振込先
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆ 郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- * クレジットカードでも受け付けております
（ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。



2024 年版放射線量測定 MAP

～とどけ鳥の思いは続いています～

2011 年、福島原発の爆発事故3か月後に測定隊を結成しスタートした放射線量測定。その翌年、南相馬市原町区に設置された「放射能測定センター・南相馬（愛称・とどけ鳥）」は現在、南相馬市小高区に在る「おれたちの伝承館」内に拠点を移し、「放射能測定センターとどけ鳥（愛称・おれ伝測定室）」として引き継がれています。

測定 MAP は、2021 年版を作成したのち、コロナの流行拡大もあり、測定隊が南相馬を訪ね測定と交流を図る、という活動自体が難しくなり、休止の状態でした。

しかし、南相馬の地域の方々で測定活動を引き継ぎ、数か月をかけて線量測定を行い、3 年ぶりに MAP が完成しました。今は 2025 年版の完成に向け、少しずつ少しずつコツコツと測定し、データをとりまとめてくれています。

3 年ぶりの MAP でわかることは、舗装された道路や生活圏内の下がり具合に比べ、道路からはずれた土の部分の線量は未だ安心して暮らせるレベルではないということ。私たちはこれからも放射線量を監視し、原発事故の爪痕を見守っていかねばなりません。

【バザール村幼稚園のインターネット接続支援】

【8/26 ドンチェヴァ氏のメールより】

バザール村幼稚園のインターネット接続はついに完結し稼働しています。幼稚園からの感謝のメールを転送します。

「インターネットご提供に心より感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、最新の教育環境の整備が可能になり、教師たちはより効率よく仕事ができ、子供たちはわかりやすく興味深い形で新しい知識を得られるようになります。

皆さんに関心を持っていただき、心を込めてご支援の努力をしてくださっていることに、深く感謝申し上げます。皆さんのすべての善行が、百倍にもなって報いられますように❤️」

ポレーシェの読者からのメッセージをご紹介します

- 一日も早くウクライナに平和が訪れますように!!
（名古屋市 O さん）
- 原発事故による甲状腺がんと闘いながら、裁判でも闘っているひとに胸が痛みます。若者に未来を!! わずかですが役立ててください。
（広島県 K さん）
- 核のない戦争のない世界を望む。（愛知県 S さん）
- 原発再開に反対します。（名古屋市 O さん）
- 戦争の被害で苦しみつつも自由と未来のため活動が続いている方々に、少しでも役に立てるなら幸いです。
（宮城県 O さん）
- 国内も国外もなかなか希望が持てないこの頃ですが、知りたいたいのことは本当のことです。（名古屋市 O さん）
- 大相撲ウクライナ出身の安青錦!! 強い!!
（愛知県 F さん）



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL&FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00 ～ 15:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エーブリント

